様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	修成建設専門専門学校
設置者名	学校法人修成学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	建築学科（２年制）	夜・通信	2208 時間	80×2＝160 時間	
	建築 CG デザイン学科（２年制）	夜・通信	2112 時間	80×2＝160 時間	
	空間デザイン学科（２年制）	夜・通信	2112 時間	80×2＝160 時間	
	住環境リノベーション学科（２年制）	夜・通信	1952 時間	80×2＝160 時間	
	土木工学科（２年制）	夜・通信	2048 時間	80×2＝160 時間	
	建設エンジニア学科（２年制）	夜・通信	1920 時間	80×2＝160 時間	
	ガーデンデザイン学科（２年制）	夜・通信	2016 時間	80×2＝160 時間	
	建築学科（２年制）	夜・通信	1696 時間	45×2=90 時間	
	専科２級建築士科（１年制）	夜・通信	1165 時間	80×1＝80 時間	
	専科１級建築士科（１年制）	夜・通信	1152 時間	80×1＝80 時間	

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/curriculum_list.pdf

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	修成建設専門専門学校
設置者名	学校法人修成学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開している。 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/officerlist.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社 代表取締役 （1995.12.1～）	2022年4月1日～2027年3月31日	広報および法人の運営に関する確認と指導
非常勤	会計士事務所経営 （2001.2.1～）	2022年4月1日～2027年3月31日	財務体制に関する確認と指導
非常勤	株式会社 取締役 （2009.12.1～）	2022年4月1日～2027年3月31日	法令遵守に関する確認と指導
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	修成建設専門専門学校
設置者名	学校法人修成学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 【作成について】 カリキュラム（授業科目及び内容）および授業計画（シラバス）については、授業評価アンケートや教育課程編成委員会の意見をもとに教員会議・科会を経て、科長・事務局長会議から、カリキュラムの設定・授業内容についての検討や検証をもとに、各授業を担当する科目主任教員と各学科長が授業計画（シラバス）を作成する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成する。授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。 【時期について】 次年度の授業計画（シラバス）は１２月～１月に科目主任教員と各学科長が作成している。３月中旬に、翌年度分のシラバスをＨＰに公開する。

授業計画書の公表方法	建築学科（昼） https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_architecture_syllabus.pdf 建築CGデザイン学科 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_cg_syllabus.pdf 空間デザイン学科 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_space_syllabus.pdf 住環境リノベーション学科 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_renovation_syllabus.pdf 土木工学科 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_civil_syllabus.pdf 建設エンジニア学科 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_engineer_syllabus.pdf ガーデンデザイン学科 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_garden_syllabus.pdf 建築学科（夜） https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_architecture_night_syllabus.pdf 専科2級建築士科 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_architec_syllabus.pdf 専科1級建築士科 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/syllabus/dept_architec_1_syllabus.pdf

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。
各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。
再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。
(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。
(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）
1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。

なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

ＧＰＡの「総合評価表」は、次のとおりとする。

GPA	総合評価
4.00	大変優秀な成績
3.00	優秀な成績
2.50	良好な成績
2.00	努力が必要
1.00	より一層の努力が必要

(1) ＧＰＡの表記と計算

GPA は、GPA 総合評価表に基づき、それぞれの科目に評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じた積の合計を、履修登録科目の総単位数で除して算出し小数点第２位まで表記する。(小数点第３位を四捨五入)

GPA は、学業成績簿につぎの２種類の方法で算出した数値を表記し運用する。

① Ｔ-GPA (総累計) : 入学後からこれまで履修登録した科目の成績を基礎数値として算出

② Ｙ-GPA (当該年度) : 各年度に履修した科目の成績のみを基礎数値として算出

(2) GPA の計算式は次のとおりとする。

$$\mathrm{GPA} = \frac{\mathrm{GP} \times \text{当該科目単位数の総和}}{\text{履修登録科目の総単位数}}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページで公開している https://www.syusei.ac.jp/jyoho/system.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

本校は、「国土建設に貢献する有能な建設技術者を養成する」ことを理念にディプロマ・ポリシーに示すスタンス（姿勢）・スキル（能力）を有する人材養成に取り組んでいる。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。

３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。
ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。

４．第１本科（昼）建築学科・建築 CG デザイン学科・空間デザイン学科・住環境リノベーション学科・土木工学科・建設エンジニア学科・ガーデンデザイン学科、第２本科（夜）建築学科の学生は、卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。

なお本校のディプロマ・ポリシーは、
（https://www.syusei.ac.jp/about/about01.html）である。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/system.html

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/balance-sheet.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/cash-flow.html
財産目録	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/property_inventory.pdf
事業報告書	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/business-report_r01.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/audit-report.pdf

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名			専門士	高度専門士
工業		工業専門課程	建築学科			○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1728 単位時間	1670 単位時間	666 単位時間	304 単位時間	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2640 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
420 人	354 人	36 人	14 人	15 人	29 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。
成績評価の基準・方法
（概要） **試験について** 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただしGPAの算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。

３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。
ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。

４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。

学修支援等

（概要）

本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、学生個々のカルテを作成する。デジタル教材やＡＩ学習システムを苦手科目の克服に活用している。

クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。

学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。

学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
222 人 (100%)	85 人 (38.3%)	126 人 (56.8%)	11 人 (4.9%)

（主な就職、業界等）

鹿島建設(株)、(株)淺沼組、コーナン建設（株）、村本建設(株)、(株)メルディアDC、(株)御堂設計、さくら構造(株)、

（就職指導内容） 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。
（主な学修成果（資格・検定等）） ビジネス能力検定ジョブパス（Ｂ検３級）、福祉住環境コーディネーター3 級・2 級、建築ＣＡＤ検定３級・2 級、カラーコーディネーター（スタンダード）・（アドバンス）、宅地建物取引士、建築積算士補、インテリアデザイン技能検定、インテリアコーディネーター1 次・2 次試験、商業施設士補、商業施設士、リビングスタイリスト２級、パース検定２級、2 級建築施工管理技術検定試験（1 次）、技能講習、特別教育
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
440 人	36 人	8.2%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">建築ＣＧデザイン学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1792
単位時間</td><td>1610 単位時間</td><td>694 単位時間</td><td>304 単位時間</td><td>0 単位時間/単位</td><td>0 単位時間/単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2608 単位時間</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	44 人	2 人	2 人	5 人	7 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または

卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 ３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 ４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。
学修支援等
（概要） 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、学生個々のカルテを作成する。デジタル教材やＡＩ学習システムを苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 （100%）	8 人 （34.8%）	13 人 （56.5%）	2 人 （8.7%）
（主な就職、業界等） (株)福本設計、(株)ライフ設計事務所、(有)ダイシンビルド、(株)キノエネ工務店、OLL DESIGN(株)、(株)SDI イドタセイイチアトリエ			
（就職指導内容） 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。 定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ビジネス能力検定ジョブパス（B 検 3 級）、福祉住環境コーディネーター3 級・2 級、建築ＣＡＤ検定 3 級・2 級、カラーコーディネーター（スタンダード）・（アドバンス）、宅地建物取引士、建築積算士補、インテリアデザイン技能検定、インテリアコーディネーター1 次・2 次試験、商業施設士補、商業施設士、リビングスタイリスト 2 級、パース検定 2 級、2 級建築施工管理技術検定試験（1 次）、技能講習、特別教育			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53 人	3 人	5.7%

（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">空間デザイン学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1760
単位時間</td><td>1466 単位時間</td><td>774 単位時間</td><td>304 単位時間</td><td>0 単位時間/単位</td><td>0 単位時間/単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2544 単位時間</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	92 人	8 人	4 人	8 人	12 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または

卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 ３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 ４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。
学修支援等
（概要） 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、学生個々のカルテを作成する。デジタル教材やＡＩ学習システムを苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
50 人 （100%）	20 人 （40.0%）	27 人 （54.0%）	3 人 （6.0%）
（主な就職、業界等） (株)リディアス、(株)美和工務店、(株)ユアサデザインルーム、(株)住之江工芸、(株)エーディックス、(株)丸末			
（就職指導内容） 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。 定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ビジネス能力検定ジョブパス（B 検 3 級）、福祉住環境コーディネーター3 級・2 級、建築ＣＡＤ検定 3 級・2 級、カラーコーディネーター（スタンダード）・（アドバンス）、宅地建物取引士、建築積算士補、インテリアデザイン技能検定、インテリアコーディネーター1 次・2 次試験、商業施設士補、商業施設士、リビングスタイリスト 2 級、パース検定 2 級、2 級建築施工管理技術検定試験（1 次）、技能講習、特別教育			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
110 人	15 人	13.6%

（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">住環境リノベーション学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1760
単位時間</td><td>1478 単位時間</td><td>698 単位時間</td><td>208 単位時間</td><td>0 単位時間/単位</td><td>0 単位時間/単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2384 単位時間</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	35 人	2 人	3 人	8 人	11 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。

なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）
下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。
１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。
２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。
３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。
ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。
４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。

学修支援等

（概要）
本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、学生個々のカルテを作成する。デジタル教材やＡＩ学習システムを苦手科目の克服に活用している。
クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。
学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。
学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 （100%）	1 人 （4.0%）	22 人 （88.0%）	2 人 （8.0%）

（主な就職、業界等）
(株)小林住宅、(株)スナダ建設、花谷建設(株)、(株)ホクト住建、(株)林建設、
アイワホーム(株)

（就職指導内容）
進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。
定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。
職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））
ビジネス能力検定ジョブパス（B 検 3 級）、建築ＣＡＤ検定 3 級・2 級、
宅地建物取引士、建築積算士補、2 級建築施工管理技術検定試験（1 次）、
技能検定（大工 3 級）、技能検定（左官 3 級）、技能講習、特別教育、安全衛生教育

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	6 人	12.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	土木工学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1728 単位時間	2099 単位時間	509 単位時間	408 単位時間	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			3016 単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	61 人	5 人	3 人	8 人	11 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または

卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 ３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 ４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。
学修支援等
（概要） 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、学生個々のカルテを作成する。デジタル教材やＡＩ学習システムを苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34 人 （100%）	0 人 （　0.0%）	33 人 （97.1%）	1 人 （2.9%）
（主な就職、業界等） 大林道路（株）、フジタ道路(株)、中川企画建設(株)、(株)宮本組、淡路土建（株）、(株)アーバンパイオニア設計			
（就職指導内容） 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。 定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ビジネス能力検定ジョブパス（B 検 3 級）、建築ＣＡＤ検定 3 級・2 級、 宅地建物取引士、建築積算士補、2 級建築施工管理技術検定試験（1 次）、 技能検定（大工 3 級）、技能検定（左官 3 級）、技能講習、特別教育、安全衛生教育			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72 人	5 人	6.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振		

（中退防止・中退者支援のための取組）
担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td colspan="2">高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">建設エンジニア学科</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1760
単位時間</td><td>1976 単位時間</td><td>456 単位時間</td><td>486 単位時間</td><td>0 単位時間</td><td>0 単位時間</td></tr>
<tr><td colspan="5">2918 単位時間</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	23 人	0 人	3 人	12 人	15 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または

卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 ３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 ４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。
学修支援等
（概要） 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、学生個々のカルテを作成する。デジタル教材やＡＩ学習システムを苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 （100%）	2 人 （15.4%）	11 人 （84.6%）	0 人 （0%）
（主な就職、業界等） (株)冨島建設、(株)大松土建、(株)宮本組、青葉工業(株)、大林道路(株)、 (株)長村組			
（就職指導内容） 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。 定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ビジネス能力検定ジョブパス（B 検 3 級）、建築ＣＡＤ検定 3 級・2 級、 宅地建物取引士、建築積算士補、2 級建築施工管理技術検定試験（1 次）、 技能検定（大工 3 級）、技能検定（左官 3 級）、技能講習、特別教育、安全衛生教育			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	2 人	6.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振		

（中退防止・中退者支援のための取組）
担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	ガーデンデザイン学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1856 単位時間	1464 単位時間	712 単位時間	208 単位時間	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2408 単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	41 人	4 人	3 人	7 人	10 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または

卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。
３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。
ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。
４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。

学修支援等

（概要）
本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、学生個々のカルテを作成する。デジタル教材やＡＩ学習システムを苦手科目の克服に活用している。
クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。
学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。
学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
22 人（100%）	1 人（4.5%）	20 人（91.0%）	1 人（4.5%）

（主な就職、業界等）
近鉄造園土木(株)、上園緑地建設(株)、(株)対馬造園、(株)グリーンライフ、
(株)奈須造園、(株)竹中庭園

（就職指導内容）
進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。
定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。
職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））
ビジネス能力検定ジョブパス（B 検 3 級）、建築ＣＡＤ検定 3 級・2 級、
宅地建物取引士、建築積算士補、2 級建築施工管理技術検定試験（1 次）、
技能検定（大工 3 級）、技能検定（左官 3 級）、技能講習、特別教育、安全衛生教育

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42 人	2 人	4.8%

（中途退学の主な理由）
一身上都合、家庭の事情

（中退防止・中退者支援のための取組）
担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">建築学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年</td><td rowspan="2">夜</td><td rowspan="2">1712
単位時間</td><td>1454 単位時間</td><td>434 単位時間</td><td>352 単位時間</td><td>0 単位時間/単位</td><td>0 単位時間/単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">2240 単位時間</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	93 人	0 人	13 人	8 人	21 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または

卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 ３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 ４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。
学修支援等
（概要） 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、学生個々のカルテを作成する。デジタル教材やＡＩ学習システムを苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
36 人 (100%)	1 人 (2.8%)	34 人 (94.4%)	1 人 (2.8%)
（主な就職、業界等） (株)現代綜合設計、(株)上野工務店、(株)DAIJU、(株)山陽建設工業、 マツミハウジング(株)、(株)ワイズデザイン建築設計室、 (株)ハラダプランニングオフィス、(有)Astyle			
（就職指導内容） 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。 定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
89 人	6 人	6.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振		

（中退防止・中退者支援のための取組）
担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td colspan="2">専門士</td><td colspan="2">高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">専科２級建築士科</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="6">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">１年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1328
単位時間</td><td>0 単位時間</td><td>1328 単位時間</td><td>0 単位時間</td><td>0 単位時間/単位</td><td>0 単位時間/単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">1328 単位時間</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80 人	105 人	3 人	4 人	4 人	8 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または

卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 ３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 ４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。
学修支援等
（概要） 入学直後に基礎学力リサーチを実施し、学生個々の状況をカルテ化する。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト（学科間、学年間交流をはかるクラブ活動）なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
71 人 （100%）	3 人 （4.2%）	63 人 （88.8%）	5 人 （7.0%）
（主な就職、業界等） (株)東畑建築事務所、(株)藤田建築設計事務所、(株)福本設計、 大和ハウス工業(株)、(株)ジェイネット、ライフデザイン・カバヤ(株)、 (株)コンパス建築工房、昭和住宅(株)			
（就職指導内容） 進路に関わる事項は、進路担当者とクラス担任者が中心となり、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、個別相談や模擬面接など、学生一人ひとりに合わせた就職支援に取り組んでいる。また WEB を活用したオンラインでの企業説明会や模擬面接も実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82 人	1 人	1.2%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td colspan="2">専門士</td><td colspan="2">高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">工業</td><td>工業専門課程</td><td colspan="2">専科１級建築士科</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="6">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">１年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">1312
単位時間</td><td>0 単位時間</td><td>1312 単位時間</td><td>0 単位時間</td><td>0 単位時間/単位</td><td>0 単位時間/単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">1312 単位時間</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
20 人	4 人	0 人	1 人	3 人	4 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て３月中旬にホームページにて公表する。

授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。

成績評価の基準・方法

（概要）

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1)　学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2)　学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格

（注）

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。
なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。

１．定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。

２．１学年の出席日数が、出席すべき日数の３分の２に達しない場合は、進級または

卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 ３．一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 ４．卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。
学修支援等
（概要） 入学直後に基礎学力リサーチを実施し、学生個々の状況をカルテ化する。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 キャンパスライフが充実するようガツンプロジェクト（学科間、学年間交流をはかるクラブ活動）なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 （100%）	0 人 （0.0%）	6 人 （85.7%）	1 人 （14.3%）
（主な就職、業界等） (株)小野建築設計、(株)三和建設、(株)福地建設、日生建設(株)、(株)大正セイミ			
（就職指導内容） 進路に関わる事項は、進路担当者とクラス担任者が中心となり、きめ細やかなキャリアサポートを行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、個別相談や模擬面接など、学生一人ひとりに合わせた就職支援に取り組んでいる。また WEB を活用したオンラインでの企業説明会や模擬面接も実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 一級建築士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8 人	0 人	0.0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。毎月、保護者へ出欠状況等を通知している。		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
建築学科（昼）	100,000 円	1,050,000 円	50,000 円	
建築ＣＧデザイン学科	100,000 円	1,050,000 円	50,000 円	
空間デザイン学科	100,000 円	1,050,000 円	50,000 円	
住環境リノベーション学科	100,000 円	1,050,000 円	115,000 円	
土木工学科	100,000 円	1,050,000 円	50,000 円	
建設エンジニア学科	100,000 円	1,050,000 円	190,000 円	
ガーデンデザイン学科	100,000 円	1,050,000 円	50,000 円	
建築学科（夜）	70,000 円	500,000 円	35,000 円	
専科２級建築士科	120,000 円	750,000 円	50,000 円	
専科１級建築士科	120,000 円	850,000 円	50,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.syusei.ac.jp/jyoho/img/hyoka_r2.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
委員会が、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果を公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色のある学校づくりを進める。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
卒業生の保護者	2019 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 （任期更新）	保護者
在校生の保護者 株式会社奥田建築事務所 所長	2019 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日 （任期終了）	保護者
在校生の保護者	2021 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 （新規就任）	保護者
元 吹田市理事	2019 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 （任期更新）	団体役員
株式会社ジェイネット 代表取締役	2019 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 （任期更新）	企業等委員
株式会社冨島建設 専務取締役管理部長	2021 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	企業等委員

	（新規就任）	
おおさか緑と樹木の診断協会 理事長	2019 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 （任期更新）	企業等委員
淺川道路株式会社 代表取締役	2019 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日 （任期終了）	企業等委員
大和田連合振興町会長	2019 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 （任期更新）	地域役員
興國学園 興國高等学校 渉外顧問統括／校務運営委員長	2019 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 （任期更新）	教育関係者
学校法人修成学園 評議員	2019 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 （任期更新）	学園関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）		
第三者による学校評価（任意記載事項）		
https://qaphe.com/result/techgraduate/syusei/syuseiyear2017/		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.syusei.ac.jp/

備考 この用紙の大きさは，日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が 1 人以上 10 人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が 0 人の場合には、「0 人」と記載すること。
＊「－」は、個人情報へ配慮するための伏字であり、記載すべき合計値等には一切影響を与えないことに注意すること。

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		162 人	148 人	164 人
内訳	第Ⅰ区分	90 人	88 人	
	第Ⅱ区分	46 人	42 人	
	第Ⅲ区分	26 人	18 人	
家計急変による支援対象者（年間）				0 人
合計（年間）				164 人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。
※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0 人	－人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	人	0 人	0 人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	－人	0 人
「警告」の区分に連続して該当	人	－人	－人
計	人	－人	14 人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0 人	後半期	－人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
３月以上の停学	0 人
年間計	0 人

（備考）

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	０人
訓告	－人
年間計	－人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	人	０人	０人
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	０人	－人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	人	－人	－人
計	人	－人	32人

（備考）

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは，日本産業規格Ａ４とする。